

## 工事中道路で借地した田畑の造成土質

### 事例の概要

河川工事で現場までの工事中道路を確保するため、田を借地して工事中道路を設置しました。土木シートを敷設後、他工区で大量に発生する土砂を改良し、盛土として使用しました。

1年間の使用後、工事中道路の撤去をしようとしたところ、改良土と土木シートが強固に付着し、土砂撤去時に土木シートが破れてしまい、残土のなかに含まれる大きな石が田の表土に混じってしまう事態が発生しました。返却時に地権者から苦情をいただきました。

### 原因

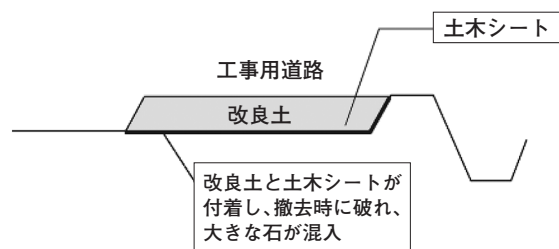
河川事業による残土が発生するため、残土を有効活用しようという意識がありました。このようなことは想定していませんでした。

### 対応策と教訓

- ・石の混入の多い箇所は、人力により除去作業を行ったものの、地権者の了解が得られず、最終的に表土を買収済の田の表土と入れ替を行いました。
- ・今回のように農地に影響を与える可能性のある場合は、石の混入のない良質の砂質土を使用すればこのようなことを防ぐことができました。砂質土であれば土木シートと

の付着も起こらず、シート撤去後のダンプ通行による沈下部に砂質土を投入することも可能です。現場の状況等によっては、表土をあらかじめ剥いで山積みし、表土にシートを被せて雑草対策を講じておき、工事終了後、表土を戻して整地することも考えられます。

#### 失敗事例



#### 望ましい姿

